

こんしゅう ちち かみ はん だん  
今週のことば「父なる神の半断」

せいしょ ふくいんしょ  
《聖書》ルカによる福音書15:1-3, 11-32

りっ ぽう がく しゃ はん だん  
律法学者の判断

ひとびと なか かつどう  
イエスが人々の中で活動されたのは、  
ごく短い期間でした。それでも、イエス  
の言葉や行動に興味を持って従った人は  
たくさんいました。徴税人や罪人もイエ  
スの身近にいました。

ところが、ファリサイ派の人々や律法  
学者たちは、イエスのそばに徴税人や罪  
人がいて、ましてや、一緒に食事をして  
いるのを見すごすことはできませんでした。

この人たちはある面で立派な人々な  
のかも知れません。神からの言いつけで  
ある律法を守ろうとして、必死に努力し  
ていました。しかし、いくらがんばって  
みたところで、完全に律法を守る人な  
どいません。この人たちの悪いところは、  
自分たちは律法をきちんと守っているけ  
れど、一般の人々はいいかげんな生活を  
していると判断して、軽蔑していたこと  
です。

ちち かみ はん だん  
父なる神の判断

きょう ばなし よ ちち  
今日のたとえ話を読んでみると、父  
なる神がどういふふうに人を判断してい

るかが良くわかります。人が失敗した事、  
できなかった事を取り上げて、くどくど  
と説教したりしません。むしろ、失敗し  
た人、できなかった人が、どういう態度  
を取るかに興味を示します。

おとうと たし ちち ざいさん つか は わる  
弟は確かに父の財産を使い果たして悪  
いことをしてしまったけれど、すべてを  
なくしてしまった時に、初めて父のあり  
がたさに気づきました。ただなんとなく  
生活していたのでは気づかなかった事を、  
自分が失敗した事によって気づかされた  
のです。

それにひきかえ、兄はどうでしょうか。  
自分はいつもまじめに働いてきて、親に  
も尽くしてきたという気持ちが強すぎて、  
反省した弟を迎える父の気持ちにはなれ  
なかったようです。この話を読んで、  
何か不公平に感じる人がいれば、それは  
兄と同じように判断しているからです。

わたし ちち かみ  
私たちは父なる神のように、なかなか  
他人の成長を見て喜べません。でも、イ  
エスと同じように、他人が悲しんでいる  
時に共に悲しみ、他人が苦しんでいる時  
に共に苦しむ、他人が喜んでいる時に共  
に喜ぶ事が大切です。いつも父なる神の  
判断を忘れないで行動しましょう。

しじゅんせつだい しゅじつ ねん たきの  
四旬節第4主日C年(滝野)